

# 18 美郷町文化財保存活用地域計画【島根県】

【計画期間】令和6～15年度(10年間)

【面積】282.92km<sup>2</sup>

【人口】約4.1千人

【関連計画等】日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」(R元年度)



江の川

## ■ 歴史文化の特性

- 1 「交流」が培った美郷の歴史文化**
- (1) 原始から続く先人の営みと交流の足跡
  - (2) 石見銀山街道と交流・交易の遺産
  - (3) 江の川の舟運と水の文化
  - (4) 古民家や寺社、鏝絵が物語る建築文化
  - (5) 三江線が通らないで交流の遺産



- 2 「川」と共生してきた美郷の歴史文化**
- (1) 山間のいで湯の郷の文化と癒やし
  - (2) 水害に立ち向かってきた先人の足跡と知恵

- 3 「山」と共生してきた美郷の歴史文化**
- (1) 蚕が紡ぐ生業の文化
  - (2) 多種多様な山野草と薬草の文化

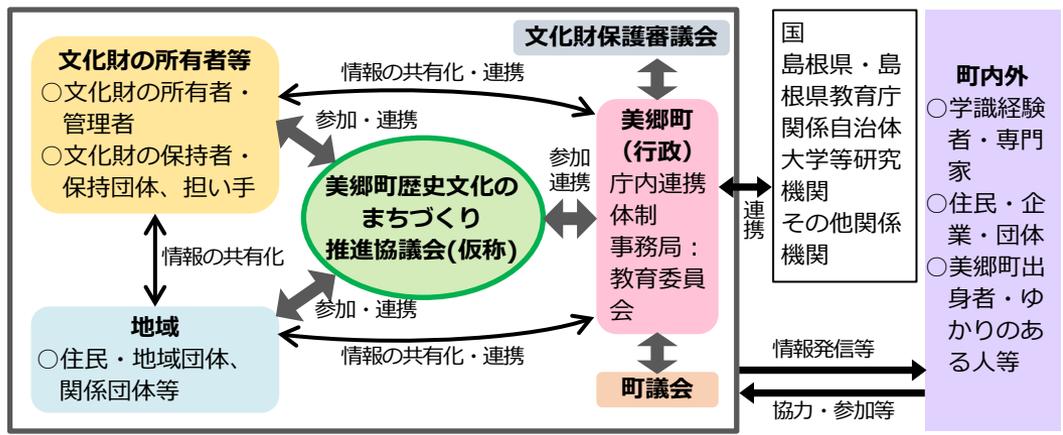
- 4 「川」と「山」に息づく美郷の歴史文化**
- (1) 石東地域の鉱山開発の先鞭「銅ヶ丸鉱山」の遺産
  - (2) たたらと鉄の文化
  - (3) 山城跡と中世の記憶
  - (4) 江の川とその景観
  - (5) 川と山の食文化
  - (6) 地域に息づく民俗芸能等
  - (7) 継承されてきた信仰と固有の空間・景観
  - (8) 樹木が彩る山間や川辺の景観と暮らし
  - (9) 川と山が育む希少な生きものと名勝地

## ■ 指定等文化財件数一覧

指定等文化財は、21件  
未指定文化財は、575件把握

類型		国指定・選定	県指定	町指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	0	0	0	4	4	
	美術工芸品	絵画	0	0	1	0	1
		彫刻	0	0	2	0	2
		工芸品	0	0	1	0	1
		書跡・典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0		
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	
	無形の民俗文化財	0	0	3	0	3	
記念物	遺跡	1	0	1	0	2	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	1	4	3	0	8	
文化的景観		0	-	-	-	0	
伝統的建造物群		0	-	-	-	0	
合計		2	4	11	4	21	

## ■ 推進体制



**町内外**

- 学識経験者・専門家
- 住民・企業・団体
- 美郷町出身者・ゆかりのある人等

『川と山と交流が培った美しき郷の遺産』をみんなで知り、守り、活かし、未来につなぐ

方向性	方向性1 文化財を知るために、 様々な調査を行う	方向性2 個々の文化財を守り活かす	方向性3 文化財を災害等から守る	方向性4 文化財をつなぎ、周辺環境を含めて、守り活かす	方向性5 文化財をみんなで支え、 未来につなぐ
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的・持続的な文化財の把握調査ができていない</li> <li>○優先順位を設定し、専門的な調査を実施する必要がある</li> <li>○調査の成果を住民等に還元する必要がある 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと教育の推進とともに食文化の普及に努める必要がある</li> <li>○民俗芸能を継承する団体の維持・活性化が求められる</li> <li>○文化財の指定・登録に計画に取り組む必要がある 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○洪水や地震、火災等の災害を想定し、指針等の作成を進める必要がある</li> <li>○文化財のパトロール等の防犯対策に取り組む必要がある。 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本遺産など、広域的な観点から保存・活用に取り組みが求められる</li> <li>○周辺環境を含めた保存・活用を地域の活性化につなげる必要がある 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な主体が参加する地域社会総がかりの体制の構築が必要である</li> <li>○まちづくり、観光振興の専門家の参加が求められる</li> <li>○専門職員の育成を効果的に進める必要がある 等</li> </ul>
方針	<p><b>1 文化財の把握・調査の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)住民参加による文化財把握調査の持続的な展開</li> <li>(2)専門的な文化財調査の計画的な実施</li> <li>(3)調査成果の整理と公開</li> </ul>	<p><b>2 分野別の文化財の保存・活用の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)文化財に関する啓発や学習・体験機会の充実</li> <li>(2)文化財を保存・活用する担い手・団体の確保・育成</li> <li>(3)文化財の活用のための整備 等</li> </ul>	<p><b>3 文化財の防災・防犯の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)文化財の防災対策の強化</li> <li>(2)文化財の防犯対策の強化</li> </ul>	<p><b>4 文化財の総合的・一体的な保存・活用と地域の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)つながりを持った文化財の保存・活用と魅力づくり</li> <li>(2)文化財の保存・活用とまちづくり</li> </ul>	<p><b>5 文化財の保存・活用の推進体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)住民の参加・協働と地域社会総がかりの体制づくり</li> <li>(2)関係機関・学識経験者等との連携体制の充実</li> <li>(3)文化財行政及び庁内連携の体制の充実</li> </ul>
措置の例	<p><b>1-3-1 文化財調査のデータベース化（把握調査、専門的調査等の成果）</b></p> <p>把握調査や専門的調査等の成果については、適宜、精査を行いつつ、データベース化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆町/所有者・地域</li> <li>◆R9～15</li> </ul>  <p>文化財の地図情報化(美郷の文化財)</p>	<p><b>2-1-4 美郷大学の開催</b></p> <p>中・長期的な学びの計画（プログラム）のもとに、学識経験者等の協力を得ながら、美郷大学（生涯学習講座）の継承・充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆町/所有者・地域</li> <li>◆R6～15</li> </ul>  <p>美郷大学</p>	<p><b>3-1-5 文化財（古文書等）の修復・保存と体験・学習機会の確保</b></p> <p>文化財の所有者や関係団体をはじめ住民が、文化財の修復の体験や技術・知識の習得ができる機会を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆町（+学識）/所有者・地域</li> <li>◆R9～15</li> </ul>  <p>天津神社文書</p>	<p><b>4-1-1 日本遺産（神楽）等の広域的な取組の推進</b></p> <p>日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」に関係する4市5町の連携による事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆町・地域/所有者</li> <li>◆R6～15</li> </ul>  <p>日本遺産の構成文化財「神楽」</p>	<p><b>5-1-2 地域ぐるみ（地域社会総がかり）の体制づくり～官民連携～</b></p> <p>住民・地域団体等、関係機関、美郷町（行政）を軸に協働で取り組むための体制の構築に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆町・所有者・地域</li> <li>◆R6～11</li> </ul>  <p>石見銀山街道における連携</p>

# 美郷町の関連文化財群と文化財保存活用区域

## 関連文化財群「銀山街道と江の川の交流・交易の遺産」

### 【ストーリー】

美郷町には、石見銀山街道が東西方向に通り、それと一部で接する形で中国地方一の大河である江の川が、広島県から北流し、町域の北部中央付近で大きく西に流れを変え、日本海に向かっていく。

石見銀山街道の沿道には宿場町の名残や寺社、古民家、往来を見続けてきた巨樹や並木などがある。本町の役場のある粕淵（小原）、その南の浜原は、江の川と接する位置にあり、江の川の舟運と街道の交流・交易により発展したまちである。

江の川は、周辺の集落、農地、山並み、橋梁、ダムなどと相まって、多様な文化的景観が形づくられる。全国的にも希有な存在となってきた築場や築漁、そしてアユをはじめとした川魚料理から、江の川の恵みを体感できる。一方で、河川近くに位置する数多くの寺社は避難地でもあり、堤防などを含め、自然と向き合ってきた先人の苦労と知恵をうかがい知ることとなる。

さらに、江の川沿いには、西の足尾銅山といわれるほど繁栄した銅ヶ丸鉱山の跡、流域には多数の製鉄遺跡が所在し、江の川の舟運との関係を類推することができる。加えて、江の川沿いを中心に建設された旧三江線の線路跡、旧鉄橋、旧駅舎、駅跡が残され、在りし日の生活を彷彿させる。

### ＜主な構成文化財＞



石見銀山街道



江の川とその周辺の文化的景観

## 文化財保存活用区域「小原宿の記憶を伝える文化財保存活用区域」

### 【区域の概要】

粕淵地区において宿場町が形成されていた一帯を小原（小原町）といい、江戸時代は宿場町であり、江の川の舟運もあったことから、たたら製鉄により生産された鉄をはじめ、様々な物資が集積し、町場が形成されていた。現在は、美郷町の役場などの公共施設も多数立地する。

江戸時代には石見銀山からの銀輸送一行が本町に入ると、山間のやなしお道（史跡）を通り、西端のやなしお坂を下りて江の川の支流・尻無川沿いの小原河原に到達し、別の牛馬に銀を付け替え、昼食・休憩を取った。それから、とどろき坂を上り小原祝に入った。現在でも小原では屈折点を伴い形成された石見銀山街道の道筋をみることができ、一帯には小原本陣跡、幕末の本陣であった建物が残る本林家住宅（現・旅館「亀遊亭」）、浄土寺などが立地し、往時の面影を伝える。

### ＜区域内の主な文化財＞



江の川とその周辺の文化的景観



本林家住宅  
(現・旅館「亀遊亭」)



浄土寺（四脚門等）



旧第一江川鉄橋

